

Profile

映画ソムリエ。雑誌やWebをはじめ、映画公開イベントでのMCとしても活動中。独自視点のレビューが人気で、映画だけでなくカルチャーへの愛が止まらない。

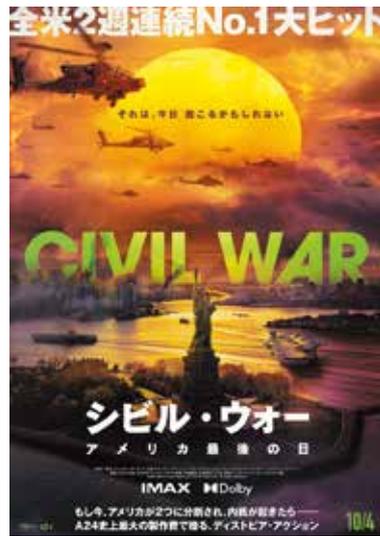
新進気鋭のスタジオでありながら、今や映画賞にも常連の「A24」。映画ファンの間で抜群の知名度を誇る「A24」は、一つのブランド化が成功しています。そんな制作会社「A24」が自社史上最大の製作費を投じ、アメリカで話題沸騰しているのが『シビル・ウォー アメリカ最後の日』。

あらずじは、連邦政府から19の州が離脱したというアメリカが舞台。分断が進み西部勢力と政府軍による内戦が勃発している中、4人のジャーナリスト・チームは、14カ月一度も取材を受けていないという大統領への単独取材を狙います。ニューヨークから約1300km、もはや戦地に姿を変えた道を車で走り、ホワイトハウスを目指すカメラマンたちの緊迫感あふれるロードムービーです。

米大統領選を控えた今、現代

人間の想像力は、時として「現実よりリアル」である

Vol.4



©2023 Miller Avenue Rights LLC; IPR.VC Fund II KY. All Rights Reserved.

『シビル・ウォー アメリカ最後の日』

2024年10月4日(金) 全国公開
配給：ハピネットファントム・スタジオ
監督/脚本：アレックス・ガーランド
出演：キルステン・ダンスト、ワグネル・モウラ、ステイヴン・マックィンリー、ヘンダーソン、ケイリー・スピニー
原題：CIVIL WAR | 2024年 | アメリカ・イギリス映画 | 109分 | PG12
公式HP：https://happinet-phantom.com/a24/civilwar/
公式X：@civilwar_jp

観 百 画 映

を生きる私たちを強く揺さぶり警笛を鳴らす映画で、現実と地続きになるような想像をさせるこの映画は、全米2週連続ナンパーワンヒットを記録しました。アカデミー賞視覚効果賞の受賞歴もあるアレックス・ガーランド監督がメガホンを取り、作り出した内戦状態のアメリカの映像は「本当に戦場にいるんじゃないか」という感覚に陥りました。極限の緊張が襲う戦場の最前線に、鑑賞後は数時間放心状

態に……。臨場感と没入感が物語の大半を占める「体験型」の反戦映画となっていました。

しかし、ずっと恐ろしいだけではありません。戦場カメラマンが主人公ということもあり、随所に挟まれる写真(ショット)からも目が離せませんでした。その静(写真)と動(映像)の緩急のバランスが、映画をよりクールなものに仕上げているんです。また、音楽センスのよさにもうならされます。「このシー

ンでこの楽曲を使用するの?」
と思える意外性のある楽曲のセレクトが、残酷で無秩序な世界が描かれるディストピナ世界観を強めていました。

最後に、一人の人間の成長物語になつていふことを言及したい。新米戦場カメラマンの視点を通し、目の前で消える命、差し迫る時間、凄惨な現実を目の当たりにしながらも葛藤を乗り越え精神的に成熟していく様子が、彼女の撮る写真の変化で伝わってきます。そのあたりにも注目を。

今作は字幕版とともにIMAXを含むプレミアムラージフォーマットでも上映が決定しています。相対的な爆音なので覚悟して、でもできるだけ「最高の空間」で鑑賞することをお勧めしたい衝撃の映画です。